

植津 光貴さん

2017年度入学、2020年度卒業
株式会社チュチュアンナ



学部時代は日本史近現代史ゼミに所属しており、広義的には近代文化史を専攻しておりました。

学部卒業後は民間のアパレル系企業である「株式会社チュチュアンナ」へ就職しました。

初期配属から2年間、営業部で卸営業を行い、3年目で商品部靴下事業部に異動し、主に生産した商品の引き取り、どこの店舗に何の商品を送るかなどの管理を行なっています。

勿論、在学中学んだことが直結する仕事ではございませんが、学業を通して学んだ視点や思考力などは、どこの業界でも必ず役に立つものだと思います。

専門的なこと以外でも、そういった基礎力を学ぶことができた非常に有意義な学生時代だったと思います。

▼インタビュー

Q1.歴史学科のよいところは？



規模が大きい大学に比べて京都府立大学は**少数精鋭**であり、一人一人専門に見合った研究が可能なおことです。府大では、先生と生徒の距離が近くなんでも相談がしやすいです。そのため、自分の進路を決めたり、研究で行き詰まったりした際にすぐに先生に質問できて、一緒に考えてくれるところが良いと思います。

また、京都という土地柄上、府立大学周辺では**一次資料**が手に入りやすく、**実地調査や歴彩館などの博物館に所有されている資料**にアクセスすることが可能ですし、周りにも大学が沢山あるので、その他にも様々な資料を手に入れやすいです。このように、歴史研究に役立つ環境が整っているところも大きな利点だと思います。

Q2.現在のご職業を選んだ理由は？



文学部は女性の割合が高いこともあって、私は在学中から女性と関わる事が多く、学生生活において女性に沢山助けられた経験から、女性の生活を助ける職業に就きたいと考えました。

また、自分が成し遂げたことによって**人に笑顔を与えたい**というのが自分のやりたいことの軸としてあったのもあり、女性向けのアパレル業界に勤めることになりました。

Q3.現在の職業のやりがい、大変なことは？



やりがいとしては、総合職についているため、色々な部署で経験を積むことができることです。また自分の実績が数値化されるので、ノルマ達成を上司に褒められた時にはやりがいを感じますね。また、トレンドアイテムを調べ分析してそれが当たると達成感を感じます。

大変なこととしては、そもそも仕事自体が大変なので、決められた目標が達成できなかったりすることや、求められたことに対して自分の結果が及ばなかったりすることです。

ただ、大変なことに関しては、**自分のできることをひたすらやり抜く**しか解決方法はないので、あまり思い詰めることなく、楽観的に考えれば良いと思います。

Q4.在学中にやっておいて良かったことは？



図書館をできるだけ沢山利用することがいいと思います。これだけたくさんの本にアクセスできるのは大学生の特権であると思いますし、社会人になると本を読む時間がかなり少なくなります。

また、**先生の研究室に足を運び、先生方と話すこと**をおすすめします。先生とお話することで知見が広がり、コミュニケーション能力もあがります。どんなことでもいいので先生とお話することはいいことだと思います。また先生だけでなく、色々な人とディスカッションをして思考力を高めることは大事ですね。

Q5.民間就職を考えている人にアドバイスをお願いします！



就活をするにあたって、一般的には、業界分析や、ガクチカを面接で話すことが求められていると考えられています。ただ、個人的には身なりを整え、**自分の軸をしっかりとつこと**が大事であるかなと思います。自分の軸がしっかり定まっていれば、受けている企業の業界がバラバラでも、そのことがマイナスにはならないと思います。

また、就活に向けて何かを準備するというよりは、**学生生活を送る中で何かに一生懸命になること**や、何よりも自分を見つめ自分自身と向き合うことが大切であると思います。

私は映画鑑賞が趣味なのですが、この趣味を通じて、自分の感性や内面を磨くことが出来たり、話すときの話題をなったりしました。

このように、実学的なことばかりにとらわれず、まずなにかやってみる、というのも自分の経験になるので、必要なことなのかもしれません。